はじめに

第一章　漆をさかのぼる——縄文漆器の世界……1

縄文ウルシの発見　2／九〇〇〇年前の赤色漆塗りの衣服　4／世界最古の漆は日本に？　6／日本海は漆海道　8／漆器づくりのムラ　11／数千年を経ても劣化が少ない漆　14／縄文人と赤色漆　15／漆との出合い——永遠の赤色を求めて　17／赤色と漆の呪力　20／気温変動が漆器づくりを加速した　20／漆塗りの工程　22／ナヤシとクロメの工程　23／縄文の漆工具　25／基本の漆工技術は縄文時代に出揃っていた　27／赤色漆塗り糸玉の謎——結びの呪力　30／鹿角の呪力を秘める漆櫛　33／象嵌装飾の櫛　36／赤色漆が幾重にも塗りこめられる腕輪　37／宴の漆器——醸造から飲酒の三点セット　38／土器にもさまざまな塗装がある　40／縄文漆絵の意匠　42／弥生人が選んだ黒色漆　44／中国・朝鮮半島から来た黒色漆　45

第二章　漆器が語る古代国家……49
古墳時代の漆の祭 50／捧げ、祭られる漆 52／夾紵の棺 54／わが国最初の水時計と漆 55／巻胎の素地 57／漆を管理する古代国家 60／奨励されるウルシの植栽 62／税としての漆・漆工品 63／漆器生産の組織 65／古代の漆工房 66／越後国の漆器生産遺跡 69／『延喜式』に見る漆工技術 72／漆器の塗装工程 76／食器の形には系譜がある 78／蒔絵のルーツを語る八角棒 81／漆一升は米一〇石 84／食器の色が身分を示す貴族社会 86／中尊寺金色堂・謎の漆下地 88／螺鈿と「黒色漆地の粉」 90

第三章　暮らしの中に広がる漆器……93
食器で作る「時間の物指し」 94／各地で働く工人たち 98／中世を体現する赤色漆絵 100／漆絵の意匠 102／鎌倉幕府と幻の型押漆絵 114／「鎌倉土産」の型押漆器 117／食漆器の普及と用材 119／食膳の変容——絵巻物から読み解く 121／漆器とかわらけ 124／一汁三菜と箸——日本的食習慣と食漆器 126／組みの椀 129／漆器の値段 133／漆の価格変動 135／副葬される食漆器 136／古代の副葬漆器 140／手箱の副葬 141／出土漆器から見えてきたもの——草戸千軒町遺跡の竹掛け花入 146／利休以前に「利休好み」が存在した？ 148／幻の正倉院の技法——漆革の水差し 150

第四章　日本の各地で生まれる漆器——食文化の変遷の中で……155
広がる近世の漆器産地 156／合鹿椀——木地屋が塗った漆器 161／民俗調査と科学分析から見た合鹿椀 163／合鹿椀と輪島塗 166／輪島塗の考古学 167／珪藻土の漆下地 169／引き鑿と突き鑿 171／輪島塗のはじまり 173／近世輪島塗の発展 176／塗師と蒔絵 178／伝統技術の継承 180／ハレの漆器——吉野椀 181／複数の吉野絵産地 185／高台寺蒔絵——近世の美意識 186／伝播する高台寺蒔絵 188／魂の器——アイヌと漆器 192／北に運ばれた漆器 194／会席料理の誕生 196／組み椀から揃い椀へ 198

おわりに——漆の未来……201

参考文献……205

コラム1　〝ジャパン〟は日本の漆器か　3
コラム2　ウルシはどんな木？　7
コラム3　漆の採取方法　13
コラム4　漆は乾く？　15
コラム5　赤色漆と黒色漆　75
コラム6　さまざまな加飾　83
コラム7　二つの下地法　97
コラム8　漆器の分類にはどんなものがある？　174